

平成27年度 宇都宮市立岡本北小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

個々の特性や能力を最大限に伸ばし、心身ともに健康で、創造性と実践力に富み、「知」「徳」「体」の調和のとれた、心豊かな児童を育成する。

【具体目標】

「健康で明るい子ども」「よく考えて判断できる子ども」「思いやりのある子ども」「ねばり強く進んで実践する子ども」

【子どものスローガン】 つよく やさしく かしこい子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、創意と活力にあふれ、児童の心を動かす教育活動を展開するとともに、「安心して通うことのできる学校」「自分の力を発揮できる楽しい学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」「保護者や地域から信頼される学校」を目指した学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）健康で明るい子どもを育てる

- 自らあいさつをしたり発言したりする態度の育成
 - ・発達の段階に応じた基本的な生活習慣の定着
- 食の大切さについての意識の高揚と日常的な運動量の確保
 - ・命の大切さを感じさせ豊かな感性を磨く指導や体験的活動の充実
- きまりの意義の理解促進と規範意識の高揚

（2）よく考えて判断できる子どもを育てる

- ・基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得
- 主体的な言語活動の充実による、思考力、判断力、表現力の向上
- 適度な家庭学習等をととした、学ぶ習慣の定着と学習意欲の向上
 - ・学習内容に応じた学習形態の工夫及び振り返り活動の充実
- 互いに授業を見合い切磋琢磨し考え合える教職員集団づくりの推進

（3）思いやりのある子どもを育てる

- ・児童の言動等へのきめ細かな対応と、教職員自身の言動に関する意識の高揚
- ・命の大切さを感じさせ、危険への予知能力や判断力を身に付けさせる指導の充実
- ・互いの意見や考えを尊重し合いながら切磋琢磨する雰囲気醸成
- 「いじめ防止基本方針」に基づくいじめ防止の徹底及び人権意識の高揚
 - ・異年齢集団での活動の推進

（4）ねばり強く進んで実践する子どもを育てる

- ・深い児童理解と、一人一人のよさが生きる教育活動の推進等による自尊感情の高揚
- 児童自身が立てた目標を実現できる機会の充実
 - ・自力で困難を克服する経験を積ませることなどによる挑戦意欲の高揚
 - ・創意工夫しながら課題を解決する機会の充実等による、主体的な対応力の向上
- 自分の将来を思い描いたり生き方について考えたりする機会の充実

（5）開かれた学校づくりを進め、地域に根ざした教育活動の推進に努める

- ・家庭や地域との連携をととした、児童の健全育成を共に図る雰囲気醸成
- ・学校公開や広報活動の充実等による、学校の教育活動への理解促進
- ・地域の教育力を活用した教育活動の充実
- 小中一貫教育に関する具体的取組の推進等、異校種との連携の強化

【古里地域学校園教育ビジョン】

児童生徒一人一人に、将来の夢や希望を持たせるとともに、「学ぶこと」、そして「心豊かにたくましく生きること」を自覚させ、社会的自立を目指す教育に小中が一貫して取り組む。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成

【学習指導】

- ・基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成

【児童生徒指導】

- ・自他の人権を尊重し生き生きと自己表現できる児童の育成 ・きまりを守り、互いに協力し合う児童の育成

【健康（保険安全・食育）・体力】

- ・積極的に運動に取り組む児童の育成 ・自他の健康や安全を意識し、考えて行動する児童の育成

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、活気があり、明るく活がある」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①「つよく やさしく かしこい子」のスローガンの浸透を図り、児童会活動の充実など、活気のある学校づくりを進める。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…94.4% ↑ ・①については、児童会活動で取り組む縦割り班活動を、さらに様々な場に広げ、異学年交流の充実を図ることができた。 ・②については、北小タイムを活用して、持久走や各種委員会の取組など、工夫のある活動を展開することができた。 【次年度の方針】 ・①については、今後も継続を図り活気ある学校づくりに努めていく。 ・②については、北小タイムやロング昼休みを活用して児童の主体的な取組を重視しながら、引き続きその充実を図る。
		②学校生活を楽しく送れるように北小タイムや集会活動などにおける主体的な取組を重視し、その活性化を図る。	B	
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方は大切なところをしっかりと教え熱心に指導してくれる」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①学校経営方針や学習指導要領の理解を深め、協働して教育活動に取り組む。	B	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…98.2% ↑ ・①については今年度の学校課題である国語科の学習を中心に授業改善を図り、全職員で取り組み、言語活動を充実させた。 ・②については、児童の学習状況を適切に把握し、休み時間等を利用して個別指導にあたるなど、基礎・基本の定着を図ることができた。 【次年度の方針】 ・①については、今後も校内研修や研究授業等で教職員の指導力向上に努める。 ・②については、担任や少人数指導教員、かがやきルーム指導員等と連携を図りながら、児童一人一人の学力の向上に努める。
		②児童一人一人の状況を的確に把握・評価するとともに、話をよく聞き、声をかけ、よさを認め伸ばす指導を繰り返す。	B	
	A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体のアンケートの「児童は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「学習の約束」「生活の約束」を各教室に掲示する。約束の内容と意義を児童・保護者・職員が共有し、全職員・保護者が共通理解の下、指導に当たる。	A	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…91.7% ↑ ・①については、全校体制で振り返りカードを活用したこと、学級懇談会等で家庭への協力を呼びかけてきたことなどがよかった。 ・②について、生活当番日誌を作成し、教職員が共通理解を図って指導に当たったことがよかった。 【次年度の方針】 ・①については、月に1回、カードを活用した「ふり返りタイム」を設けることで、児童の意識をより高められるようにする。 ・②については、生活当番の引き継ぎの時間を必ず確保することで、より足並みをそろえた指導体制を確立できるようにする。
		②月に一度の生活指導部会で指導の重点を絞り、全職員で指導を繰り返す。	B	

A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体のアンケートの「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」⇒児童の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 80%以上	①学習のねらいを明確にし、T・T、少人数指導、習熟度別学習等、個に応じた効果的な指導や支援体制を工夫する。 ②各教科等において、基礎的・基本的な知識や技能が確実に定着するように、教材教具や教育機器等を活用したり、授業の展開を工夫したりして、分かる魅力ある授業を実践する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…95.2% ↑ ◇保護者の肯定的回答…84.4% ↑ ・①については、児童に学習のねらいを示し、振り返りを行うことを、学校全体として行っている。T・Tや少人数指導については、特に、3年生以上の算数で力を入れており、他の一斉指導の場合でも、個に応じた指導を心がけている。 ・②については、基礎・基本の定着に力を入れてきた結果、全国学力調査（6年）やとちぎっ子学習状況調査（4・5年）の結果が向上した。限りある予算の中から、個人やグループ学習での使用が効果的なホワイトボードを購入したり、インターネットやデジタル教科書を活用したりと、工夫している。 【次年度の方針】 ・①については、児童が学習のねらいを知り、主体的に取り組めるようにすることが大切なので、今後も努力していく。 ・②については、基礎・基本を確実に押さえる指導を常に心がけるとともに、研究授業等でお互いに授業を参観し、よさや課題を話し合いながら指導力の向上に努める。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体のアンケートの「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」⇒児童の肯定的回答 85%以上	①いじめはいかなる理由でも許されないことを、朝の会、帰りの会、道徳の時間、学級活動などを通して継続的に指導する。 ②いじめに関するアンケート調査、教育相談、いじめ対策委員会、ケース会議等を計画的にかつ必要に応じて実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…95.5% ↑ ・①については、「いじめは絶対許さない 見逃さない」という全職員の共通理解のもと指導にあたったのがよかった。 ・②については、児童の様子について、定期的におたよりやHPなどで、保護者や地域に発信したのはよかった。しかし、保護者の肯定的回答は、72.6%で昨年より上回ったものの、まだ低い傾向にあり、保護者にはまだ十分に伝わっていない様子が見られる。 【次年度の方針】 ・①については、今年度同様、いじめは絶対に許さないという全職員の共通理解のもと指導にあたっていく。 ・②については、月に1回のアンケートの継続的实施や、児童の情報交換や対応の仕方について協議するためのブロック会議を定期的に開くことで、いじめの早期発見・早期対応に努めていく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは適切に実施されている」⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①PTA・地域諸団体との十分な調整を行いながら年間行事予定を作成するとともに、週案による時数管理、学校行事終了後の振り返りにより、次年度の教育課程の工夫改善を行う。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答…100% ↑ ◇保護者の肯定的回答…95.9% ↑ ・事前に行事の調整を図りながら行事を調整したり、夏季休業中に3日間の授業日を設けたりし、教育課程の適切な運用に努めることができた。 ・水曜日にロング昼休みを設け、児童の学校生活に対して充実感が高まった。 【次年度の方針】 ・次年度も授業時数の確保や行事の調整を行い、教育課程の効果的な運用の工夫を図る。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学年便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」⇒保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	①年2回の学校公開土曜授業を、学校を知ってもらう機会として効果的に実施する。 ②学校・学年だよりや各種便りの定期的な発行と学校ホームページの定期的な発信に努めるとともに、伝える内容の精選と見やすく分かりやすい表現について工夫する。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…96.2% ↑ ◇地域住民の肯定的回答…100% ↑ B ・①については、6月と12月に学校公開土曜授業を実施し、保護者や地域の方に学校の情報を効果的に提供することができた。 ・②については、保護者、地域、自治会へ定期的に各種便りを発行し、学校の情報を積極的に発信してきた。また、学校HPの更新を継続して行うなど、内容の充実に努めた。 B 【次年度の方針】 ・①については、土曜授業の内容を充実させ、開かれた学校づくりを推進する。 ・②については、今後も各種便りと学校HPの定期的な発行や発信に努める。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等が連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	①地域人材や専門家派遣人材を活用した授業を各学年1回以上は実施する。 ②地域との連携事業(学校公開・地域協議会・安全対策連絡会・民生委員との情報交換等)を積極的に進める。	【達成状況】 ◇教職員の肯定的回答…96.0% ↑ ◇保護者の肯定的回答は 89.3% ↑ B ・①については、各学年とも地域コーディネーター等と連携を図り、積極的に取り組んだ。 ・②については、学習指導・児童指導・安全指導などの教育活動を通して、地域との連携事業を進めることができた。 B 【次年度の方針】 ・①については、次年度も計画的に出前授業等が実施できるよう学習計画に位置付ける。 ・②については、PTA運営委員や地域コーディネーターと連携・協力しながら、学校運営の充実をさらに図る。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①清掃の手順を明確にしたり、身の回りの整頓やごみを落とさない、落ちているごみは拾うなどの指導を学級活動で話し合ったりし、環境の美化に自主的に取り組める児童の育成に努める。 ②清掃強化週間における働きかけや清掃コンクールの実施等をととして児童への清掃への意識を高める。	【達成状況】 ◇保護者の肯定的回答…93.5% ↑ A ・①については、清掃の反省カードの活用などを通して、児童の意識の向上が見られた。 ・②については、清掃強化週間、清掃コンクール等の取組はできなかった。 A 【次年度の方針】 ・①については、清掃道具の使用法の周知をより徹底していく。また、清掃のやり方の動画を作り、全校放送する予定である。 ・②については、本年度は実施できなかったが、来年度は方法を吟味し実施していく。
B 1 「魅力ある学校づくり地域協議会」の経営参画を積極的に進めている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、魅力ある学校づくり地域協議会と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	①学校で課題となっていることを積極的に説明し、地域協議会の意見を反映するとともに、学校と地域が一体となって課題解決にあたる。	【達成状況】 ◇地域住民の肯定的回答…100% ↑ B ・定期的に(年4回)地域協議会を開催し、学校側と率直な意見交換を行った。また地域協議会便りで、地域人材活用をした授業の様子や課題を積極的に発信することができた。 【次年度の方針】 ・地域協議会の目的や役割を明確にして、部会ごとに具体的な施策を話し合い、各人の役割が果たせるように工夫していく。

教育活動の状況	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童と保護者の肯定的回答 80%以上	①児童・保護者・地域・教職員が協力して互いにあいさつをする習慣づくりを目指す。特に教職員は、率先してあいさつを繰り返す。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…89.1% ↑ ◇保護者の肯定的回答…65.6% ↓ ・①については、学校ではあいさつする習慣が身についてきていると言えるが、時と場に応じたあいさつが十分とは言えないようである。 ・②については、1年を通してあいさつ運動を実施してきたことが、児童の意識の高揚につながったと思われる。 【次年度の方針】 ・①については、年に3回のあいさつ運動強調週間のときには、保護者や地域の方にも協力をお願いし、地域ぐるみで実施できるようにしていく。 ・②については、今年度同様、どの児童も主体的に取り組めるようなあいさつ運動を1年間を通して実施していく。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」⇒児童と保護者の肯定的回答 80%以上	①相手の立場や時と場に応じた正しい言葉づかいを発達段階に応じて具体的に示し、児童・保護者・地域住民・教職員の共有のもとで、よりよい言語環境へ向けて指導する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…77.3% ↓ ◇保護者の肯定的回答…67.7% ↓ ・職員室に入るとき言葉づかいなどを見ると成果は見られるが、まだ、十分とは言えないようである。 【次年度の方針】 ・今年度同様、丁寧な言葉遣いができていないときには、どの学年においてもその場ですぐに指導するなど、教職員が足並みをそろえて指導に当たっていく。また、授業での発表の仕方や敬語の使い方などの指導の充実を図っていく。
		B2 児童は、互いに協力して活動している。 【数値指標】 独自アンケートの「児童は、学校行事や児童会活動、縦割り班活動などにおいて、協力して活動している。」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	①学級等において、日常的に協力することの大切さを指導するとともに、道徳の時間においても協力・協調の態度を育む指導を重点化する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…93.9% ↑ ◇教職員の肯定的回答…100% ↑ ・①については、各学級において協力して活動する機会を意図的に設けたのがよかった。 ・②については、縦割り班の活動を昨年度よりも回数を多くし内容も充実させたのがよかった。 【次年度の方針】 ・①については、今年度同様、協力して活動する機会を意図的に設けるとともに、道徳の時間にも一層力を入れて指導に当たっていく。 ・②についても、今年度同様、縦割り班での活動をイベントに合わせて取り入れていくとともに、縦割り遊びのときには、マンネリ化しないで協力して遊べるような計画づくりや集中して遊べるような時間の設定をしていく。また、縦割り活動の様子がわかるような掲示板の充実を図り、協調性が育まれるような環境を整えていく。
			②児童会によるあいさつ運動や、あいさつコンテストなど、あいさつに自ら取り組めるような、機会を多く設定する。	

健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、休み時間や放課後など、積極的に運動をしている」⇒児童、<u>教職員</u>の肯定的回答 80%以上	①教科体育や体育的行事を生かし、児童に積極的に運動するよう働きかける。 ②児童が、目標を決めて進んで取り組めるように、各種の検定やがんばりカードなどを工夫改善し、指導に生かす。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…89.4% ↑ ◇教職員の肯定的回答…100% ↑ ・①については、校庭の遊び方の約束の周知や、教職員による外遊びの励行の呼びかけが功を奏していると考えられる。 ・②については、なわとびカードの中で難しい種目を一部変更するなどし、児童の発達段階に合った検定内容に改善した。休み時間に練習する児童も多く、手ごたえを感じている。 【次年度の方針】 ・①については、児童の意識が高まっているので、今後も継続して指導していく。また、体育的な催しを運動委員会で企画していく。 ・②については、成果も見られたので、よいものは継続していく。今後も、児童の実態を見ながら修正を加えていく。
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」⇒児童、<u>教職員</u>の肯定的回答 80%以上	①学級懇談における話合いや食育だより等を通して、食育に対する関心を高め、食の大切さについて保護者への啓発を図る。 ②給食の偏食の多い児童に対しては、個別指導を実施し、状況に応じた指導を充実する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…78.3% ↓ ◇教職員の肯定的回答…80.0% → ・①については、食育便りを通して保護者の意識を高めたり、地域協議会や学校給食委員会において、児童の事態や食育指導の様子を説明してきた。 ・②については、偏食指導を昨年度から定期的に行ってきた程度の効果はあがってきたが、十分とは言えない。 【次年度の方針】 ・①については、食育便り等を通じて情報提供をするとともに、調理コンクールの応募を奨励するなど食への関心を高め、啓発に努める。 ・②については、本年度行った給食がんばりカードの発行を定期的に行い、今後さらに完食することへの意欲を高めていく。
	B3 児童は、進んで自分の健康づくりに取り組んでいる。 【数値指標】 独自アンケートの「自分は、健康に気を付けて、規則正しい生活をしている。」⇒児童、<u>保護者</u>の肯定的回答 80%以上	①う歯や近視等の疾病の予防や治療に取り組めるよう、保護者へ呼びかける。 ②早寝早起きやテレビ・ゲームの時間など規則正しい生活の大切さについて、日常的に指導する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…92.1% ↑ ◇保護者の肯定的回答…87.0% ↑ ・①については、疾病等の治療を速やかに行ってくださる家庭が多く、毎年早期治療ができていたのも特長である。 ・②については、児童の就寝時間が遅めの傾向があり、日常生活に支障が出ないように、 【次年度の方針】 ・①については、治療が行われない家庭に限られているとも言えるので、継続して治療のお知らせをしていく。 ・②については、全職員共通理解のもと児童に日々指導をしていくとともに、学級懇談や個人懇談で話題として積極的に取り上げ、家庭との連携を密に規則正しい生活の習慣化に取り組む。

学 習	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」⇒児童、<u>教職員</u>の肯定的回答 80%以上	①魅力のある学習課題及び提示の仕方を工夫するとともに、「分かる」「できる」授業の展開や、一人一人への支援に努める。 ②児童が「話す」スキルを習得できるように、「話したい」テーマや場を設定したり経験の場を増やしたりするよう努める。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…88.9% ↑ ◇教職員の肯定的回答…96.0% ↑ B ・①については、課題や提示の仕方にとどまらず、児童の学習意欲を引き起こしたり、必要性を感じたり、生活との結び付きを図ったりするような授業を工夫している。ほめて伸ばすことを大切に、昨年度より個々の自己肯定感を高めることができた。 ・②については、話す、聞く、書く力をつけることを、学校課題として取り組んでいる。これらの力を身に付けるために、マニュアルを示したり、授業や朝の会などでできるだけ話す機会を設けたり、ペアやグループで話し合ったりするなど、場の設定を工夫してきた。 B 【次年度の方針】 ・①については、それぞれの教師が教材の分析に努め、資料などの準備を積極的に行い、魅力ある授業の実践に努力していることを継続する。 ・②については、今年度の取組を継続するとともに、「アクティブ・ラーニング」の重視が言われているように、形式的な話し合いではなく、中味を大切にしていく。
	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」⇒児童、<u>教職員</u>の肯定的回答 80%以上	①教科の特性に応じた指導の中にあっても、共通の「学習の約束」「話し方・聞き方」をもとに発達段階に応じた指導を全職員で継続して取り組む。 ②特に中学年以上の児童には、多くの教職員が指導に当たれるよう、担任外教職員による授業や担任同士の授業交換等を進める。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…85.6% ↑ ◇教職員の肯定的回答…96.0% ↑ B ・①の「学習の約束」は、今年度は児童一人一人に配付し、学期ごとに自己評価するようにしたところ、守ろうとする意識が高まっている。話し方・聞き方についても、学校全体で指導し、少しずつ身に付いてきた。 ・②については、3年生以上の授業に、担任同士の授業交換の他に、副校長、教務主任、少人数指導教員、特別支援教室指導員などが関わり、多面的に児童を見たり、教師の特性を生かした指導を行ったりしてきた。 B 【次年度の方針】 ・①については、話をよく聞いて落ち着いて学習することは、学習効果を上げるための大前提なので、今後もしっかり取り組んでいく。 ・②については、来年度もできる範囲で授業交換を進める。
	B4 家庭学習を続ける習慣が身についている。 【数値指標】 独自アンケートの「児童は宿題や自主学習を計画的に行っている」⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	①児童の実態に応じて、宿題及び学習の内容や分量を工夫し、家庭学習の習慣化を図る。 ②学年ごとに、「家庭学習のすすめ」に基づいた、家庭学習の内容と方法を具体的に示し指導する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…88.0% ↑ ◇保護者の肯定的回答…67.3% ↓ B ・①については、各学年でどのような宿題をどのくらいの分量を出すかについての情報を、教職員で共有して取り組んできた。 ・②については、市の学校教育スタンダードや、古里地域学校園で作成した「家庭学習の A

		③家庭学習の定着の意義や学校での指導内容を、学級懇談会や学年だより等で保護者に知らせ、理解や協力を得られるように努める。	すすめ」に基づき、指導に取り組んだ。 ・③については、学年だよりで知らせたり、学級懇談や個人の懇談で話題にしたりしてきた。 【次年度の方針】 ・①については、児童が行ってきた家庭学習に目を通し、ゴム印を押したりシールを貼ったりするなどの励ましを継続する。また、忘れがちな児童に対しては、個別に指導する。 ・②については、家庭学習の内容や方法は年度始めに指導することが多いが、必要に応じて途中でも繰り返し指導する。 ・③については、家庭学習の意義や指導内容に家庭に伝え、協力をお願いするとともに、「計画的に」の中味を学年の発達段階に応じて具体的に設定し、評価の目安としていく。
本校の特色・課題等	B5 自分の考えをもち、進んで表現し、学び合える児童を育成する。 【数値指標】 独自アンケートの「児童は、思ったことや考えたこと、感じたことを、自分の言葉で表現している」⇒児童、教職員の肯定的回答 80%以上	①児童が必要を感じたり、関心・意欲をもって取り組んだりできる言語活動の場を工夫する。	【達成状況】 ◇児童の肯定的回答…90.6% ↑ ◇教職員の肯定的回答…91.7% ↑ ・①については、各教科などの授業で、「話す、聞く、書く」の言語活動の場を工夫してきた。例えば、調べたことやまとめたことを友達や他学年の児童に伝える活動は、意義を感じたりやる気を起こしたりしやすい。題材を工夫した1分間スピーチなども実践している。 ・②については、自分の考えを書いてから話すことを多くしている。考えが書いてあれば、安心して話しやすい。グループでの話し合いでは、付箋に自分の考えを短く書いて提示し、話すきっかけにしたり、ホワイトボードに書いたりする活動が効果的なので、実践している。 【次年度の方針】 ・①については、「楽しく言語活動ができた。」だけでは不十分なので、中味や質、何が得られたのかということを大切にしていく。 ・②については、児童はペアやグループ学習で活発に話せる傾向にあるので、できるだけ自分の考えを表現できる場を設定していく。具体的には、ホワイトボードの活用に加え、自分の考えをまとめるために整理して書く活動にも力を入れていく。
		②児童が意欲的に自分の考えを表現できる場面を意図的・計画的に設定する。	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】○「児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、困難に立ち向かうたくましい児童の育成」について

- ・「学校は活気があり、明るく活気がある。」「先生方は大切なところをしっかりと教え熱心に指導してくれる。」などの評価指標は、学業指導の取組や個別指導、授業改善による言語活動の充実に向けたことが効果を上げ、児童から高い評価指数を集め、本校の学校経営理念である「安心して通うことのできる学校」「自分の力を発揮できる楽しい学校」「きまりを守り互いに尊重し合う学校」を目指した学校づくりの推進を達成することにつながった。
- ・「学校の日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。」「学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。」などへの保護者の評価指標はさらに高まり、「年間を通じてバランスのとれた行事配分」や、「土曜授業の内容の充実」並びに「夏季休業中の夏授業の実施」などが保護者・地域から開かれた学校として認識いただく要因と推測される。
- ・「学校は、家庭、地域、企業等が連携して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」「学校は、魅力ある学校づくり地域協議会の経営参画を積極的に進めている。」の評価指数は引き続き高い評価を得ている。今後も地域人材活用による交流活動や地域協議会等との連携を深め、学校からの情報発信を充実させることで効果的な運営を推進する。

【学習指導】「基礎・基本の定着と、言語活動の充実による思考力・判断力・表現力の育成」について

- ・「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」の評価指標については、教師は何と言っても授業が命であり、児童に力をつけることが生きがいであることから、努力を続けているので、数値指標が目標を上回ったことは喜ばしい。今後も努力を続けていく。
- ・「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」の評価指標については、目標を上回った。話をよく聞いて落ち着いて学習することは、学習したことを身に付け、学力を向上させる基本なので、大切にしている。しかし、一部には落ち着かない児童がおり、課題がないわけではない。また、思考力や判断力、表現力を養うための言語活動は重要なので、学校課題として力を入れており、継続したい。
- ・「児童は宿題や自主学習を計画的に行っている」の数値指標は、目標を児童の回答は上回ったが、保護者の回答が下回った。前年度のとちぎっ子学習状況調査のアンケート結果から、本校の児童は家庭学習の時間が県平均よりやや短いという結果が出たので、授業はもちろん、宿題や自主学習も充実するように力を入れてきた。その結果、例えば6年生は、今年度の全国学力調査で全国平均を上回り、市の定着度調査でも市の平均を上回る成果を上げている。家庭学習の評価については、「計画的に」ということが難しいと思われるので、次年度はそこに焦点を当てて取り組んでいく。

【児童指導】「自他を尊重し生き生きと自己表現できる児童の育成／きまりを守り、互いに協力し合う児童の育成」について

- ・「きまりを守りマナーを守って生活しているか」の評価指標については、生活当番日誌を作成したことや振り返りカードを活用した取組が効果をあげ、達成できたが、さらに、児童の意識を一層高められるような取組や、教職員の足並みをそろえた指導体制を確立していく必要性があげられる。
- ・「いじめ対策の取り組み」についての評価指標については、全職員の共通理解のもと指導に当たったことが効果をあげ、児童に関しては十分に達成できているが、保護者に十分に伝わっていない課題が認められる。おたよりやHPなどを通して定期的に学校の取組について発信するとともに、月に1回のアンケートの継続的实施や、児童指導のブロック会議を定期的に開くことで、いじめの早期発見・早期対応に努めていく必要性があげられる。
- ・「時と場に応じたあいさつや言葉遣い」の評価指標については、1年間を通じたあいさつ運動などの取組が効果をあげたが、時と場に応じたあいさつが十分とは言えないようである。あいさつ運動は、保護者や地域の方にも協力をお願いし、地域ぐるみで実施できるようにしていくこと、言葉遣いに関しては、教職員が足並みをそろえて指導に当たっていくとともに、授業での発表の仕方や敬語の使い方などの指導の充実を図っていくことの必要性があげられる。
- ・「協力して活動しているか」の評価指標については、各学級において協力して活動する機会を意図的に設けたり、縦割り班の活動を充実させたりしたことが効果をあげ、十分に達成できたが、さらに、協調性が育まれるような環境を一層整えていく必要性があげられる。

【健康（保険安全・食育）・体力】「自ら考え生き生きと運動に取り組む児童の育成／健康や安全を意識し、考えて行動する児童の育成」について

- ・全体的に、昨年同様、保護者・児童ともに健康に対する意識が高い。職員が積極的に外遊びの励行や、好き嫌いを減らすための取り組みを進めたことで、さらに改善が見られたので、今後も意欲づけを図る。
- ・わずかに目標に届かなかった「栄養のバランスを考えた食事」について、がんばりカードをさらに活用することで意識の向上が期待できるので、今までの努力を継続しつつ、底上げをしていきたい。
- ・清掃・環境についての意識は毎年向上しており、大きな成果が見られた。細かなところで工夫の余地があるので、今後も児童の意識を高めるような指導をしていきたい。

6 学校関係者評価

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【アンケート全般】

- ・今回初めて地域協議会に参加したが、協議会の方々とのお話合いが貴重な体験となった。児童の様々な活動を見せていただき、大変ありがたかった。
- ・実際に給食と一緒に食べたり授業参観をさせていただいたりして、学校の様子が良く分かった。
- ・保護者と児童、保護者と教職員の肯定的回答にかなり差が見られるのが気になった。
- ・マネジメントの説明を初めて聞いた。児童、保護者、教職員、地域が真面目に判断していると感じた。
- ・自由記述の部分は少数意見ではあるが、できることは来年度改善していくとよい。

【児童の様子】

- ・返事や「…です。」「…ます。」の使い方も、指示するとよくできる。
- 言葉遣いが以前よりよくなった。「ありがとうございます。」も進んで言える。
- ・今の子どもたちはとても素直で、注意されたこともすぐに受け入れることができる。
- ・学区内の公園でも、学年に関係なく遊ぶ姿が見られる。高学年が低学年の面倒をよく見ているのは、縦割り班活動の影響もあるのだろう。

【あいさつ】

- あいさつは、だいぶ積極的になってきた。
- あいさつが自然とできる環境が整うとよい。
- あいさつができると、学校全体が活気に満ちてくる。
- 朝だけでなく、いつでもどこでもできるようになるとよい。
- あいさつは、中学生も素晴らしい。地域全体がよくなってきた。
- 登下校時や遊びの行き帰りなども進んであいさつをしてくれる児童がいる。
- 旗当番で朝、登校指導をしているときも、児童の方からあいさつをしてくれるようになった。
- OPTA 活動で学校に来たときに、廊下ですれ違うたびにあいさつをしてくれて嬉しかった。

【学習】

- 授業参観をして、先生方の様々な工夫を感じた。パソコンを巧みに使ったり、視覚的にとらえやすい教材を準備したりするなど、前向きな姿が見られてよかった。
- 家庭学習の進め方については、親がもっと自主学習の進め方を導いてあげる必要があると感じた。

【健康・給食】

- よく食べる児童が多い。すぐにおかわりをするのではなく、落ち着いて食べる様子が見られた。
- ・よい歯の表彰を受けていることは素晴らしい。地域に環境が整っていることも大きい。

【いじめ】

- 子ども会が活発になると、子どもたちも仲良くなれる。
- 児童が「思いやり」を感じるような授業を行ってほしい。
- もっと学校、地域で楽しい思い出がつかれるような行事を行うとよい。
- 道徳の教科化が話題となっている。いじめをなくすために、「命」「優しさ」に重点を置いた授業を展開してほしい。
- 「いじめアンケート」はよく実施していることは分かったが、書くのが恥ずかしい子どももいる。
また、「なんでも相談」で担任と2人きりになると、なかなか話せない子どももいる。担任以外の先生方といつでも話せるようになっていくとよい。
- いじめはいじめの方が完全に悪い。いじめは決して許されないということを指導していきたい。

【環境】

- ・「学校のトイレがきたない。」という保護者の意見があるが、綺麗にするにはどうすればよいか考えていく必要がある。

【ボランティア活動】

- 授業の中で多くのボランティアによる学習支援活動を行っているが、保護者の方にあまり認識されていないのが残念である。授業参観や土曜授業などに、ボランティア活動を取り入れてはどうか。
- 地域協議会として、ボランティア活動についてもっと保護者及び地域に啓発していきたい。
- 地域協議会が中心となって、地域の人材を発掘し、PRしていかなければならない。もっと多くの方が学校に入って児童の支援を行えるとよい。

【スマホ・携帯電話】

- ・携帯電話やスマホは、これからますます使用頻度が増す。ルール作りの前に、どのように利用するか、どうすると上手な使い方になるのか、学校、家庭、地域みんなで考えていく必要がある。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（１）健康で明るい子どもを育てる

- あいさつについては、時と場に応じて全校体制で指導を繰り返してきたことや、毎週水曜日実施しているあいさつ名人やボランティアによるあいさつ運動の実施、さらには地域学校園及び地域協議会との連携で行ったあいさつ強化週間などの取組が大変効果的であった。また、朝のあいさつだけでなく、日中のあいさつや会釈も身に付いてきている。今後も、児童会を中心にあいさつ運動をさらに強化するとともに、保護者及び地域、学校園との連携を深め、「いつでもどこでもあいさつができる岡北小の子ども」の育成を目指していく。
- 給食の好き嫌いは、昨年度よりは解消されているが、個人差が大きい。担任が給食主任や学校栄養士と連携を図りながら、繰り返し偏食指導を行っていく必要がある。また、今年度取り組んだ「給食頑張りカード」による励ましは大変有効であったので、来年度以降も継続して実施する。

（２）よく考えて判断できる子どもを育てる

- 今年度は「主体的に考え表現できる子どもの育成～自分の考えを整理してまとめる力の向上を目指して～」をテーマに掲げ研究を行ってきた。自ら表現することを不得手とする児童が多かったが、ペアや小グループによる話し合い、マニュアルに沿った文章の書き方、理由を明確にした分かりやすい文章表現などを繰り返し指導することで、多くの児童が自信をもって自分の考えを積極的に表現することができるようになってきた。今後も学年の発達段階に応じた系統的な指導を全校体制で行っていく。
- 古里地域学校園共通の「学習のきまり」や「家庭学習の進め方」などを継続指導してきたこともあり、自主学習に進んで取り組む児童が増えてきたが、個人差が大きい。家庭との連携を図りながら、学ぶ意欲を高められるように指導をしていく。
- 一人一授業を計画的に実施し、よりより指導法を身に付けられるようにお互いに授業を見せ合い、教師の指導力向上に努める。

（３）思いやりのある子どもを育てる

- 「いじめは絶対に許されない」という共通理解のもと、ちょっとした児童の言動を見逃さずに、迅速な対応を組織的に行っていく。これまで同様に「いじめに関するアンケート調査」、「なんでも相談」を定期的の実施するとともに、困ったときに、だれにでも相談できる環境を整えていく。
- 「命の大切さ」「思いやりの心」を育てるために、道徳教育の充実を図る。道徳教育推進教師を中心に、児童の実態に合った教材開発を進めるとともに、道徳授業の公開を積極的に行い、保護者や地域の方々にも見ていただき、家庭においても「命の大切さ」や「思いやりの心」について話し合う機会をつくる。
- 縦割り班活動による校内ウォークラリー及び共遊の時間を確保したことで、学年の垣根を越えて遊ぶ姿が見られるようになった。また、放課後も、公園などで異学年で遊ぶ姿や、登下校時に上級生が下級生に優しく声をかける姿が地域の方の目に留まり、ほほえましいとの感想をいただいている。今後も異学年交流を推進し、よりよい人間関係づくりに努めていく。

（４）ねばり強く進んで実践する子どもを育てる

- 学期の始めに児童が立てた目標を振り返る場を何度か設け、ゴールに向かってどのように進んでいくかを具体的に指導する。一人一人ができるようになったこと、自信をもって取り組めるようになったことを自覚できるようにするとともに、自己肯定感を高められるようにする。

（５）開かれた学校づくりを進め、地域に根ざした教育活動の推進に努める

- 学習支援ボランティアや出前授業を取り入れた授業の取組など、地域コーディネーターや地域連携教員を中心に積極的に実施し、学校だより・学年だより・地域協議会だより等で積極的に発信してきたが、実施内容についてはあまり家庭や地域に伝わっていないことが残念であった。来年度は、授業参観や土曜授業の場で、学習支援ボランティアと共に行う授業を公開したり、学習支援のみならず環境支援にもボランティア活動を導入したりするなどして、地域の教育力を活用した教育活動の充実を図る。